

## 普及活動情勢報告（令和5年7月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

### 安田町特産ジネンジョ生産維持に向けて～種イモ生産実証ほ設置～



ジネンジョ発芽数調査の様子

7月3日、13日、安田町中山地区のジネンジョ実証ほで発芽調査を行いました。この実証ほは、以前から特産品として栽培されているジネンジョが、アブラムシで感染するウイルス病のため種イモ確保が課題となっており、防虫ネットの利用でアブラムシによる感染が防げるか技術実証を行うため設置しました。

調査と同時に栽培担当の集落活動センター「なかやま」に対し、調査結果の共有及び薬剤防除や防虫ネット設置のスケジュールについて指導しました。

農業改良普及課は、今後も地域での種イモ確保に向けた取り組みを支援していきます。

### ぼたなすの未来に向けて ～「ひなたぼっこ」定例会～



説明を熱心に聞く役員ら

7月10日、室戸市日南・大平地区集落活動センター「ひなたぼっこ」は定例会を開催し、役員6人が参加しました。

農業改良普及課室戸支所からは地域の伝統野菜「ぼたなす」の規格等についての提案や、形質を守るための採種株の選定について説明しました。

役員からは「地区で出荷規格を統一することで品質のバラつきがなくなって良い」と前向きな評価をいただきました。

今後も室戸支所は、「ひなたぼっこ」の発展に向けて伴走支援していきます。

### 地域の10年後はどうなっているでしょう？ ～奈半利町地域計画座談会～



地域計画座談会で話し合いを支援する普及指導員

7月12日、奈半利町大原西ノ平地区生活改善センターで地域計画作成に向けた2回目の座談会を開催し、関係機関を含め11名が参加しました。

地域の拡大地図を囲んで、現在の耕作者の情報を共有しながら、将来の担い手などについて話し合いました。

「ここは耕作放棄地になりつつあるが、条件もよいので耕作者がいるならば農地として活用するようにしたい」「このほ場は地域外から子や孫が頻繁に作業しにきているので10年後も活用されると思う」などの声が聞かれました。

農業改良普及課では、引き続き地域の農地が活用されるよう支援をしていきます。

基礎的な知識、技術を学ぼう！ ～ 第1回農業基礎研修講座 ～



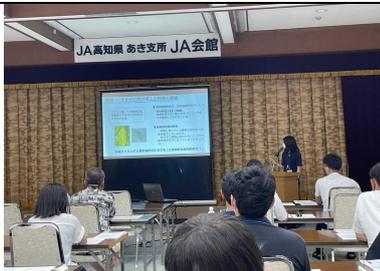
土壌肥料について説明する普及指導員

7月12日、新規就農者の栽培技術向上と経営の安定化を図ることを目的に農業基礎研修講座を開講し、研修生を含む21人が参加しました。農業改良普及課の職員が講師となり、土壌肥料の基礎知識、農業経営、GAPについて講義しました。土壌肥料では、座学だけでなく、施肥量の計算演習や土壌サンプルを使っでの測定実習も行いました。

参加者からは、「これから営農が始まるのでとても勉強になった」「すぐに役立つような内容だった」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も研修会や個別指導を通じて新規就農者への支援を行っていきます。

1年間の試験結果を報告しました ～試験展示圃成績発表会～



実証ほの成績を説明する普及指導員

7月14日、JA高知県あき支所において安芸地区園芸研究会主催の試験展示圃成績発表会が開催され、生産者25人が参加しました。農業改良普及課は、令和4年度に実施した、ナスにおける冬期の収量向上、ナスすすかび病防除体系、低濃度エタノールによる土壌還元消毒、PCお竜の生育・収量特性について試験結果を報告しました。

参加者からは、炭酸ガス施用や防除の方法等について質問が出されました。試験結果の報告をしたことで、基礎的な栽培管理の重要性の再認識や次作に向けて意欲を高めることができました。

農業改良普及課は、今後もJA等関係機関と連携して、新たな技術の実証、普及に向けて支援します。

スマート農業技術の実装に向けて ～ユズ新規就農者の遠隔指導実証～



適期防除等について指導する普及指導員

7月20日、ユズの新規就農者5名を対象にスマートグラスを用いた遠隔指導実証を実施しました。本実証は、農林水産省の「スマート農業実証プロジェクト」として令和4年度から2ヵ年で取り組んでいるものです。

当日はスマートグラスにより生産者のほ場と北川村旧Aコープ跡の事務所をつなぎ、JA営農指導員とともに、適期防除やサテ被覆、摘果等について指導をしました。

生産者からは、「想像していたよりもスムーズにやり取りできる」「今後もスマートグラスで気軽に相談できたら助かる」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後もJA等関係機関と連携して、スマート農業技術の実装、新規就農者の早期技術習得に向けて支援します。